

【ご案内】

「家庭科の授業を語る会（第208回）」の開催

三寒四温で季節は確かに春に移っていくことを実感する今日この頃です。大学では後期の授業が終了し、またゆったりとした時間が流れています。

さて、第208回の「家庭科の授業を語る会」では、今村先生に附属小学校での授業実践を紹介していただき、そこで児童がどのように学びを深めているのか検討していきたいと考えています。授業者にとって児童・生徒の学びの実態を把握することはとても大切なことですが、なかなか難しいことでもあります。今回、一緒にじっくりその姿に目を向けてみましょう。

対面とオンラインのハイブリッドで開催しますので、どうぞご都合のよい方法でご参加下さい。

- 日時：2026年2月21日（定例の第3土曜日） 午後2時から午後4時
- 場所：宮崎大学教育学部 技術・家庭科棟 T211教室
Zoomでのご参加は、下記のアドレスに接続下さい↓
<https://us02web.zoom.us/j/82555748274?pwd=PGhkoWy4Nff2eigG9GYazWimO5rYa5.1>
○ミーティング ID: 825 5574 8274 ○パスコード: 1Bbg6u
- 話題：心も暮らしも豊かにする家庭科学習の在り方
- 話題提供者：今村 愛実（宮崎大学附属小学校）

「家庭科の授業を語る会（第207回）」（2026年12月20日）の報告

- 話題：生涯を見通す力を育む高等学校家庭科 ―将来の収支をふまえた生活設計―
- 話題提供者：梨岡さくら（宮崎大学大学院）

第207回の「語る会」では、大学院生の梨岡さんが、高校家庭科における生活設計の授業プランについて話題提供して下さいました。高校家庭科の課題として、学習指導要領ではA「家族・家庭生活」領域とC「消費生活・環境」領域が、相互に関わっているにもかかわらず構造上独立して位置付けられていることから、領域間の連携を意識した学びが必要であると考えられていました。また、高校生にとって、いきなり将来の生活を想像することは難しく、学習内容を他人事として捉えてしまい、具体性に欠けることも課題とされてきました。

そこで、高校生の実態をふまえて、自分の現在の生活を出発点として、これからの人生を長期的な視点で考える授業が展開されていました。特に印象的だったのは、「投資＝未来の自分を作るための行動」と述べられていたことです。「投資」と聞くと、金銭的リターンを期待するものやリスクを伴うものと捉えがちですが、未来の自分を作るための行動として学習することで、より自分の現状を把握し、「自分だったら」という視点をもった学習につながると感じました。

今回のお話を聞き、領域にとらわれず、相互に関連させて授業を展開することの重要性を実感しました。ありがとうございました。（文責：夏井）

連絡先：家庭科の授業を語る会（事務局）

〒889-2129 宮崎市学園木花台西1-1 宮崎大学家政教育講座内

伊波 富久美（大学院教育学研究科）：Tel/Fax 0985-58-7539（直通）

：メールアドレス e09101u@miyazaki-u.ac.jp（cc.を削除）

瀧元 有理（教育学部）

：Tel/Fax 0985-58-7541（直通）

：メールアドレス takimoto.yuri.q0@miyazaki-u.ac.jp

- 「家庭科の授業を語る会」のホームページ：<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc074/htdocs/>